

風疹の理解・予防を

患者会「悲しむ家族出さないで」

岡大でセミナー

風疹と先天性風疹症候群(CRS)の理解を深めようと、北区の岡山大鹿田キャンパスで10日、公開セミナー「子どもをまもる 風疹・風疹ワクチンの知識」があった。参加した患者会のメンバーは「妊婦だけでなく感染を広めないように、男女とも関心を持って、東京五輪の2020年までに風疹を根絶させたい」と呼びかけた。

【前本麻有】

CRSは妊婦が風疹 難聴、白内障などが発症すること、赤ちゃんに先天性疾患や

予防接種を受けてい



風疹に対する理解と予防を呼びかける可児佳代さん
—北区鹿田町2の岡山大鹿田キャンパスで

い20〜40代の男性が風疹に感染する傾向がある。この日は岡山大学院の中塚幹也教授、理化学研究所新興・再興感染症研究ネットワーク推進センターの加藤茂孝理学博士が講演した。

患者会「風疹をなくそうの会ハンドインハンド」の共同代表・可児佳代さん(60)「岐阜市、西村麻依子さん(31)」「神戸市、岡山代表の川井千鶴さん(39)」「岡山市」は、3人もCRSの子を持つ母親だ。可児さんは2001年に、CRSだった長女妙子さんを18歳で亡くした。「ワクチン一本で命が救えるのに、風疹の知識と情報がなく、娘に障害を持たせ、旅立たせてしまった。もう二度と風疹を流行させず、悲しむ家族が出ないように」と話した。

用が「高い」というが、誰に感染させてしまいかわからない。ぜひ、助成期間中に受けて」と訴えた。

自治体ごとに、風疹に対する抵抗力を調べる「抗体検査」、ワクチン接種の助成制度が異なるが、県内の居住者は今年度、無料で抗体検査が受けられる。県によると抗体検査は5000〜6000円、ワクチン接種は1万円程度。西村さんと川井さんは「男性は費